

第4回舞鶴市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成29年4月25日（火） 午後1時30分～午後3時

【場所】市役所本館4階 第一委員会室

【出席委員】尾上委員、木谷委員、品田委員、田中委員、谷口委員、西山委員、
藤原委員、森委員、山川委員
(12名中9名出席：有効に成立)

【事務局】市民文化環境部長 飯尾、環境対策室長 平野、生活環境課長 福田、
清掃事務所長 本合、リサイクル事務所長 橋本、生活環境課主幹 田中

【傍聴者】0人

1. 市長挨拶

2. 諮問

市長より諮問書読み上げ、山川会長に提出

< 諮問事項 >

「循環型社会の形成に向けた新たな取り組みについて」

- (1) 容器包装リサイクルに関する取り組みについて
- (2) リデュース、リユースの推進について
- (3) ライフスタイルの変化や高齢化などへの対応について

3. 開会

4. 議題

(1) 諮問事項の概要について

事務局より諮問事項の概要及び今後のスケジュールについて説明

(2) 諮問事項①「容器包装リサイクルに関する取り組みについて」

- ・事務局より諮問事項①「容器包装リサイクルに関する取り組みについて」説明
- ・3つの施策の提案
 - ①ペットボトルの単独分別
 - ②プラスチック製包装類の資源化
 - ③プラスチック製容器包装選別ラインの見直し

< 質疑応答 >

- ・(委員) 古紙の分別収集を開始したことにより資源化率が低下したのか。
(事務局) 古紙の分別収集を開始したことにより資源化率は上昇したが、その後の資源化率低下は古紙の発生量及び回収量が減少してきていることが関係していると考えられる。
- ・(委員) 資源化率16%というのは現時点の目標だと思うが、最終目標の数値はあるのか。
(事務局) 環境基本計画で定めている最終目標は(平成32年度に)25%である。

- ・(委員) 施策を実行することで収集した容器包装プラスチック類のうち8割を資源化するとあるが、全国や京都府並みの9割程度を目指さないのか。
(事務局) 施設の改修を進めるなかで、少しずつ資源化量を増やしたい。
- ・(委員) 施策を進めることで、市民負担や分別コストはどの程度変わるのか。
(事務局) 埋立量の軽減や施設の改修費用、収集にかかる経費など、様々な観点から比較・検討する必要がある、コストを比較するにはもう少し時間を要する。
- (会長) 3Rはお金を安くするために行うのではなく、二酸化炭素の排出量削減や石油の節約などの環境負荷軽減に対する評価も検討し、社会的なメリットを計る視点で見たい。
- ・(委員) お菓子袋は燃えるごみと聞いているが、変わると理解して良いのか。
(会長) 設備の燃焼効率等の問題もあると思うが、リサイクルにより資源化を促進し、最終処分量を減らすという形で考えてもらうのが良い。
- ・(委員) 資源ごみの分別はどの程度きちんとして行われているのか。
(事務局) 可燃ごみの組成分析の結果では古紙の割合が多いため、改善の余地があると思われる。市民や事業所向けの啓発に改めて取り組みたい。
- ・(委員) ペットボトルだけ、もしくは資源化物だけを月2回収集にするといった予定はあるのか。もしくは収集用ケースを設置するといった新しい収集形態の可能性はあるのか。
(事務局) 収集経費や技術的な課題などの懸念材料をふまえて、引き続き検討していきたい。

< 委員からの意見 >

- ・今回の提案内容は、より高みを目指して頑張っていくという点と、頑張っていくためにはどうすればよいかという点が主なポイントであり、施策の導入段階での取り組み方は今後更に検討していく必要があるだろう。
- ・資源化率16%という数値は、全国平均の20%や最終目標の数値に到達するための第一段階の目標だと考えており、3つの施策だけでなく現状の分別ルールを徹底することによって、資源化率はより上がるのではないかと。
- ・細かい数字を出すよりも、もう少しわかりやすく大きな目標を出す方が、理解を得やすいのではないかと。
- ・紙類を資源ごみとしてもっと出していかなければならないと思うが、雑紙類については生活実態を詮索されるため排出量が少なくなった事例もあり、プライバシーを考慮した回収方法について検討してみる必要があるのではないかと。
- ・もっと多くの市民が目にする場で、わかりやすい啓発を継続的に行っていく必要があるのではないかと。

5. その他

- ・次回審議会までに容器包装リサイクルに関する取り組みにかかる中間答申案を事務局で作成し、委員に事前配布する。